

令和7年度「教職員の働き方改革に係る意識等調査」の結果について【データ編】

1 調査方法等

(1) 調査時期

令和7年12月現在の状況

(2) 調査対象校

スクール・サポート・スタッフもしくは副校長・教頭マネジメント支援員を配置している、県内の公立小学校107校、中学校71校、高等学校15校、特別支援学校34校を抽出し、合計227校で実施。

(3) 調査対象教職員

調査対象校の副校長、教頭、主幹教諭、教諭、臨時的任用教諭、養護教諭、栄養教諭、事務職員(※有効回答数1,847名)

(4) 調査の実施方法

各学校から県教育委員会へ、Web入力により直接回答する。

2 調査結果について

(1) 「勤務時間の意識」、「働きやすさ」、「働きがい」、「子供に向き合う時間の確保」についての設問

できている(感じている)、少しできている(少し感じている)、あまりできていない(あまり感じていない)、全くできていない(全く感じていない)の4段階の内、上位2段階を肯定的評価とし、その割合を、職種や学校種など様々にクロス集計をした結果である。

勤務時間の意識については、時間外在校等時間が長くなるほど、時間の意識は低下しているため、時間の意識の啓発が必要である。

「働きやすさ」や「働きがい」については、高い数値を示しているが、高等学校や、栄養教諭の働きやすさに関する数値が全体より低く出ているため、その原因に対する調査・研究が必要である。また、事務職員の働きがいについても、全体より低く出ているため、調査・研究が必要である。

【「働きやすさ」について】

働きやすい職場にするためにどのようにすればよいかと、任意で意見聴取した結果、以下のような意見がみられた。

原因は一つではなく、様々な立場が様々な手立てを持つことで、働きやすさの向上につながると考えられる。

1. **先生同士の助け合い・コミュニケーションが必要**
 - ・職員室が明るい雰囲気、何でも話せると楽しく働ける。
2. **業務の分担や業務量の均等化が重要**
 - ・一人に仕事が集中しないよう、校務分掌を均等にすることで、心の余裕も生まれる。
3. **業務の効率化・削減を図る**
 - ・パソコンやタブレットなどICTを使って、事務作業を減らす。
4. **職場の雰囲気・心理的な安全情報共有・共通理解が大切**
 - ・困ったときにすぐに相談できる体制があると安心。
 - ・仕事のやり方やルールをみんな理解し合うことが大切。

職種別結果（４段階評価で上から２段階の肯定的評価の割合）【表１】

※「子供と向き合う時間」については、1日の業務を100としたときの子供と向き合う時間を確保できている割合

※（ ）内は、日常から子供と関わる職種ではないため参考数値

	勤務時間を意識して勤務することができるか	現在の職場を働きやすい職場と感じているか	現在、仕事に働きがいを感じているか	「子供（児童生徒）と向き合う時間」をどれくらい確保できているか※
教 頭	93%	93%	92%	(40%)
教諭・講師	85%	88%	91%	58%
養護教諭	95%	97%	94%	66%
栄養教諭	79%	79%	93%	(30%)
事務職員	95%	85%	<u>77%</u>	(26%)

学校種別結果（４段階評価で上から２段階の肯定的評価の割合）【表２】

※「子供と向き合う時間」については、1日の業務を100としたときの子供と向き合う時間を確保できている割合

	勤務時間を意識して勤務することができるか	現在の職場を働きやすい職場と感じているか	現在、仕事に働きがいを感じているか	「子供（児童生徒）と向き合う時間」をどれくらい確保できているか※
小学校	87%	90%	90%	60%
中学校	85%	88%	92%	58%
高等学校	86%	79%	89%	54%
特支学校	89%	85%	87%	55%

経験年数別結果（４段階評価で上から２段階の肯定的評価の割合）【表３】

※「子供と向き合う時間」については、1日の業務を100としたときの子供と向き合う時間を確保できている割合

	勤務時間を意識して勤務することができるか	現在の職場を働きやすい職場と感じているか	現在、仕事に働きがいを感じているか	「子供（児童生徒）と向き合う時間」をどれくらい確保できているか※
～5年目	82%	91%	91%	62%
6～10年目	86%	85%	89%	59%
11～20年目	90%	89%	91%	57%
21年目～	88%	87%	90%	58%

時間外在校等時間別結果（４段階評価で上から２段階の肯定的評価の割合）【表４】

※「子供と向き合う時間」については、1日の業務を100としたときの子供と向き合う時間を確保できている割合

	勤務時間を意識して勤務することができるか	現在の職場を働きやすい職場と感じているか	現在、仕事に働きがいを感じているか	「子供（児童生徒）と向き合う時間」をどれくらい確保できているか※
4.5時間未満	<u>95%</u>	90%	91%	61%
4.5時間～8.0時間	<u>79%</u>	86%	90%	56%
8.0時間以上	<u>66%</u>	87%	87%	51%

【「働きがい」について】

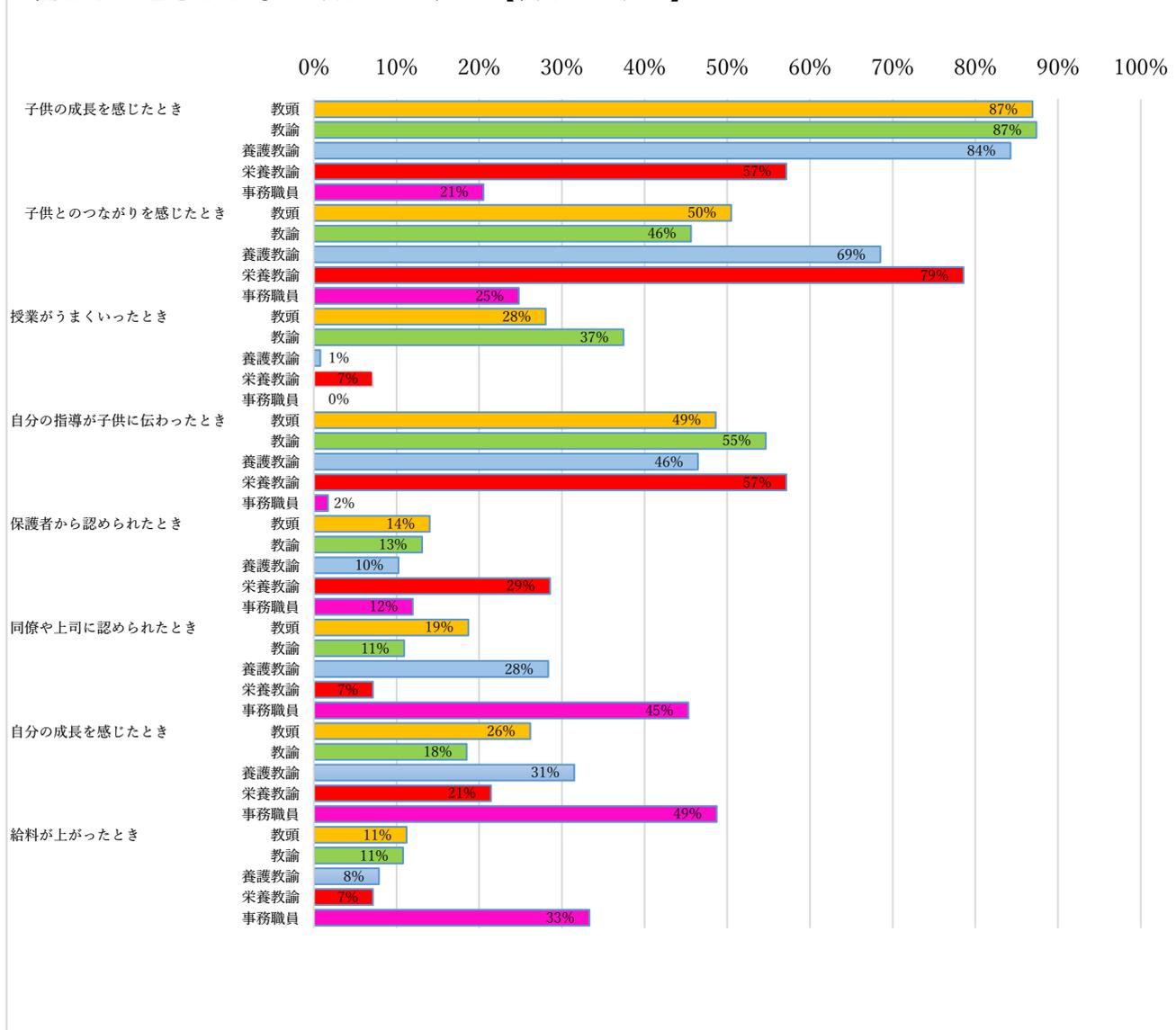
教職員になってよかった、教職員としての働きがいを感じるタイミングについて、最大3つまで回答で意見聴取した結果、以下のような意見がみられた。

多くは、子供との関わりについて「働きがい」を多く持つことから、子供と向き合う時間の確保と、そのための準備等（授業準備・スキルアップのための研修）を含めた時間の創出が必要であると考えられる。

役職別結果（最大3つまで選択）【表5】

	子供の成長を感じたとき	子供とのつながりを感じたとき	授業がうまくいったとき	自分の指導が子供に伝わったとき	保護者から認められたとき	同僚や上司に認められたとき	自分の成長を感じたとき	給料が上がったとき
教頭	87%	51%	28%	49%	14%	19%	26%	11%
教諭・講師	87%	46%	38%	55%	13%	11%	19%	11%
養護教諭	84%	69%	1%	47%	10%	28%	32%	8%
栄養教諭	57%	79%	7%	57%	29%	7%	21%	7%
事務職員	21%	25%	0%	2%	12%	45%	49%	33%

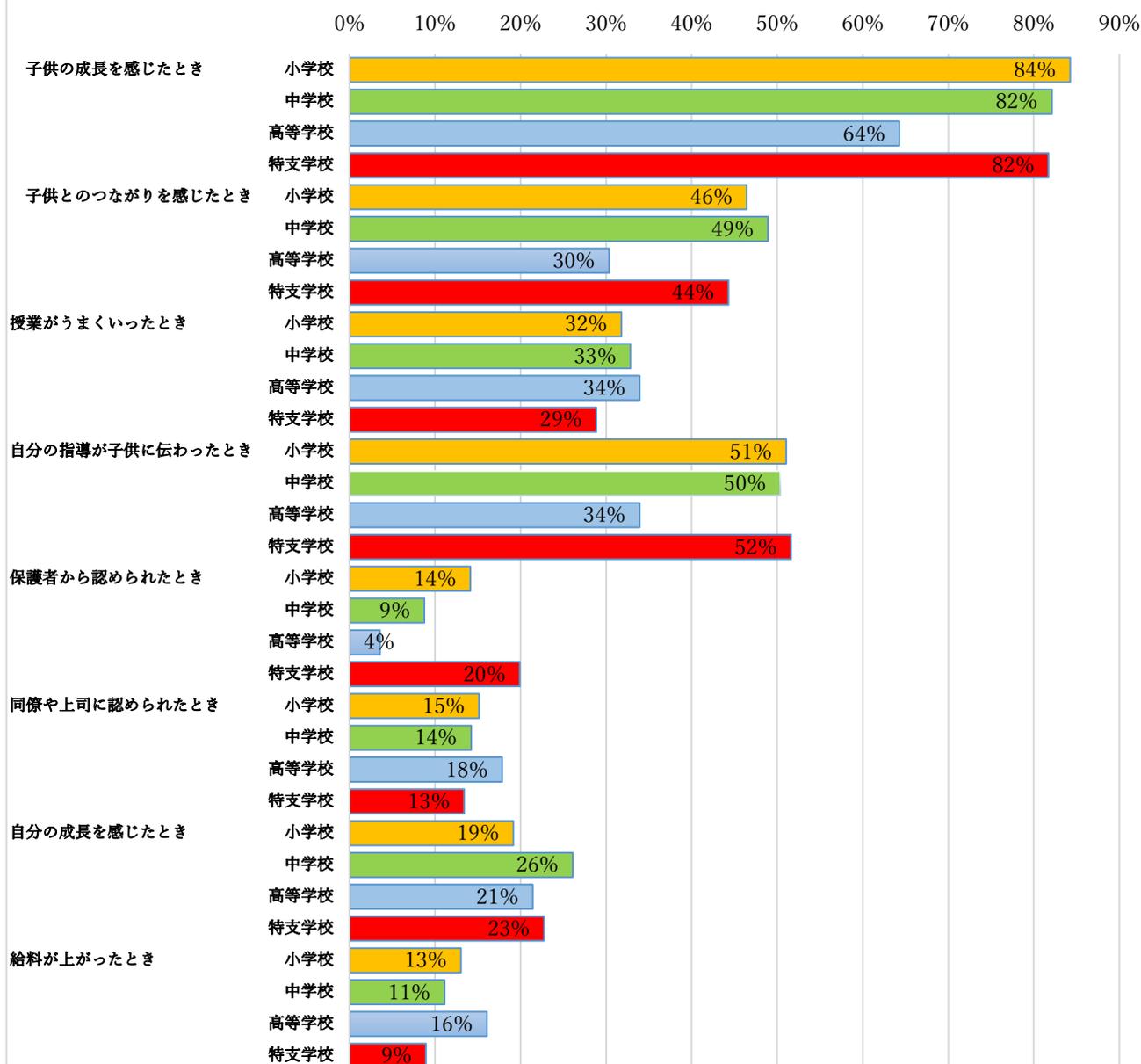
働きがいを感じる時（最大3つ）【表5のグラフ】



学校種別結果（最大3つまで選択）【表6】

	子供の成長を感じたとき	子供とのつながりを感じたとき	授業がうまくいったとき	自分の指導が子供に伝わったとき	保護者から認められたとき	同僚や上司に認められたとき	自分の成長を感じたとき	給料が上がったとき
小学校	84%	46%	32%	51%	14%	15%	19%	13%
中学校	82%	49%	33%	50%	9%	14%	26%	11%
高等学校	64%	30%	34%	34%	4%	18%	21%	16%
特支学校	82%	44%	29%	52%	20%	13%	23%	9%

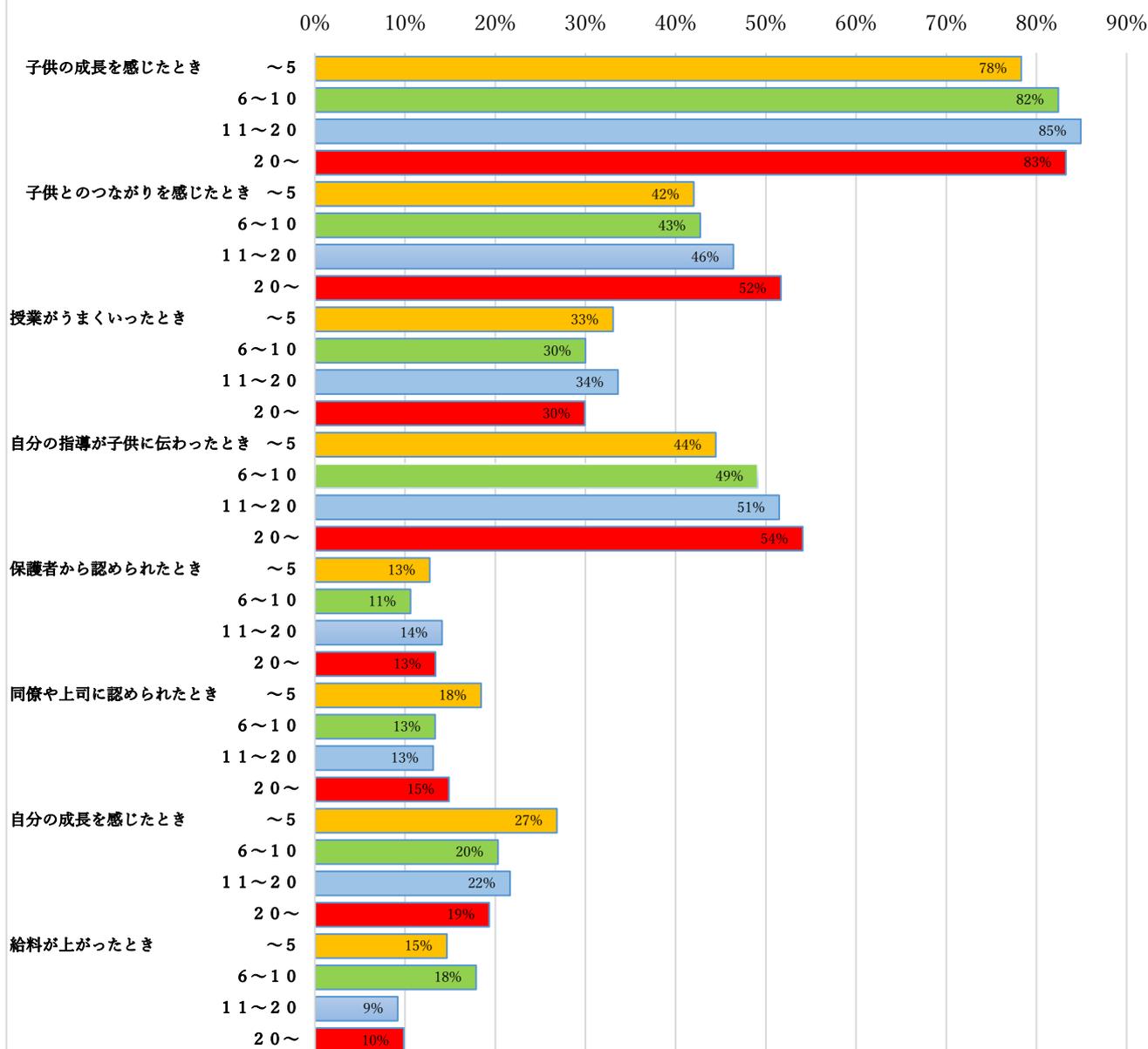
働きがいを感じる時（最大3つ）【表6のグラフ】



経験年数別結果（最大3つまで選択）【表7】

	子供の成長を感じたとき	子供とのつながりを感じたとき	授業がうまくいったとき	自分の指導が子供に伝わったとき	保護者から認められたとき	同僚や上司に認められたとき	自分の成長を感じたとき	給料が上がったとき
～5年目	78%	42%	33%	44%	13%	18%	27%	15%
6～10年目	82%	43%	30%	49%	11%	13%	20%	18%
11～20年目	85%	46%	34%	52%	14%	13%	22%	9%
21年目～	83%	52%	30%	54%	13%	15%	19%	10%

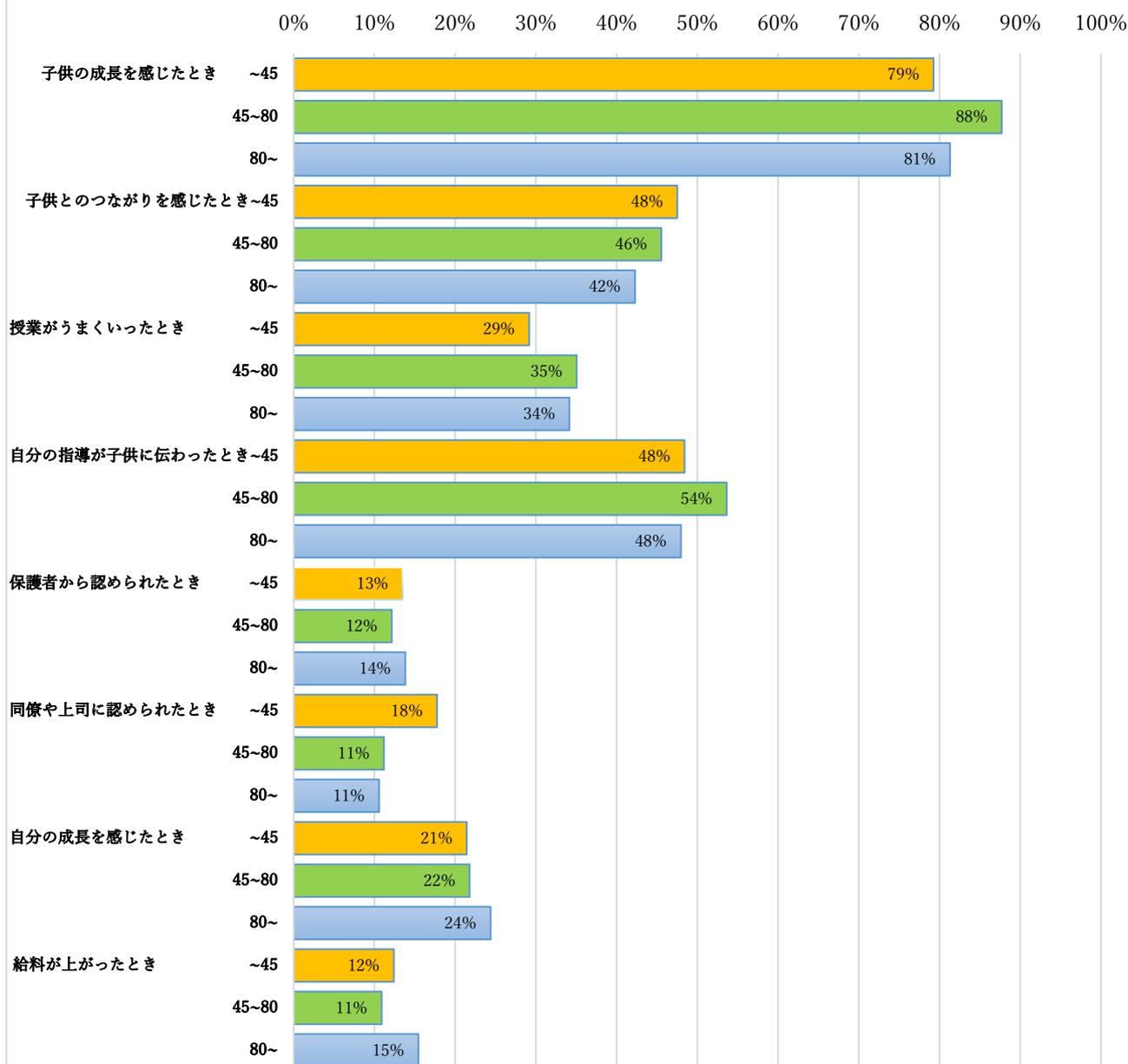
働きがいを感じる時（最大3つ）【表7のグラフ】



時間外在校等時間別結果（最大3つまで選択）【表8】

	子供の成長を感じたとき	子供とのつながりを感じたとき	授業がうまくいったとき	自分の指導が子供に伝わったとき	保護者から認められたとき	同僚や上司に認められたとき	自分の成長を感じたとき	給料が上がったとき
45未満	79%	48%	29%	48%	14%	18%	21%	12%
45～80	88%	46%	35%	54%	12%	11%	22%	11%
80以上	81%	42%	34%	48%	14%	11%	24%	15%

働きがいを感じる時（最大3つ）【表8のグラフ】



【子供と向き合う時間を確保するために必要だと思うこと（自由記述から）】

1 人的支援

- ・スクール・サポート・スタッフや専科の教員、小学校の副担任など、業務を分担できる人がいると、子どもと向き合う時間が増える。
- ・学校でやるべき仕事、職員以外でもできる仕事をすみ分けて切り離すことが必要。

2 職場の協力・自身のスキルアップ

- ・みんなで仕事を協力したり分担したりすると子供と関われる時間が作れる。
- ・業務に追われていると心の余裕がなくなるので、自身のスキルを身に着けたり、チャレンジしたりすることができる環境が必要。
- ・勤務時間を意識して働くことでメンタルヘルスや心身の健康を保つ意識を高めていく。
- ・職員間のコミュニケーションやチームとしての連携。

3 業務の効率化による時間の創出

- ・業務量を分担して、平準化すること。
- ・時数や行事などを精選して、放課後の時間をしっかりと確保すること。
- ・会議などの時間を削減すること。
- ・調査やアンケートなどの事務仕事の精選。
- ・ICTなどで、業務を効率化すること。
- ・無駄なことを思い切ってなくす決断すること。

子どもと向き合う時間の確保については、調査開始以来、数値が横ばいのままであることから、その課題を明らかにするため、「子供と向き合う時間を確保するために必要だと思うこと」について自由記述で回答を求めた。人的支援に関わる、教員をサポートする人材の配置の要望が多かったことから、スクール・サポート・スタッフや副校長・教頭マネジメント支援員といった、外部人材の配置拡大を進めることが重要であると言える。

また、「チーム学校」としての支えあえる体制づくりや、風通しの良い職場環境の整備が大切だという意見や、教職員一人一人が指導力や事務処理能力といった、自身のスキルアップが必要という意見も見られた。

さらに、業務の削減や精選、ICTの活用等による業務の効率化等、事務的業務の削減や、業務の平準化等の意見も多く見られた。このことから、業務削減の好事例の周知や、業務改善DXアドバイザー配置等による業務効率化、文書半減プロジェクト等の取組をさらに進めるとともに、報告様式や方法についても全般的に見直していくことが必要である。また、学校徴収金の徴収・管理は、公会計化やシステムの導入等が必要であり、学校だけでなく服務監督教育委員会の支援が必要である。

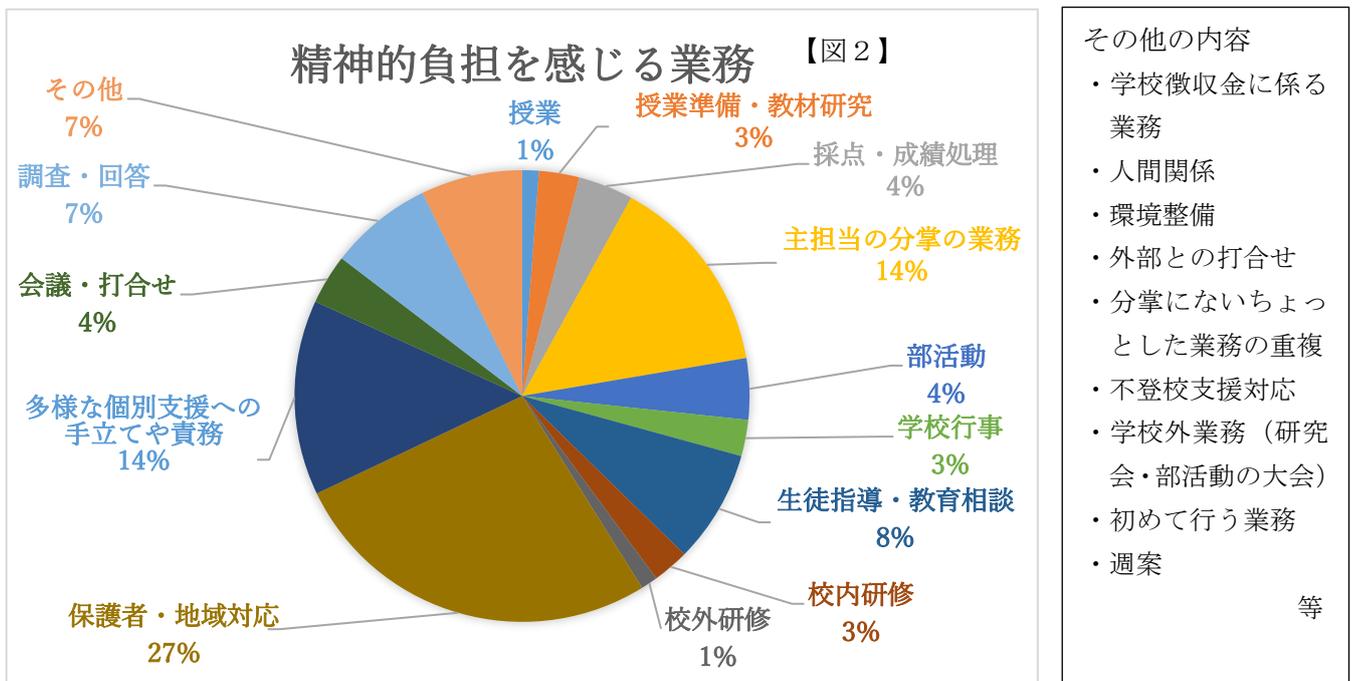
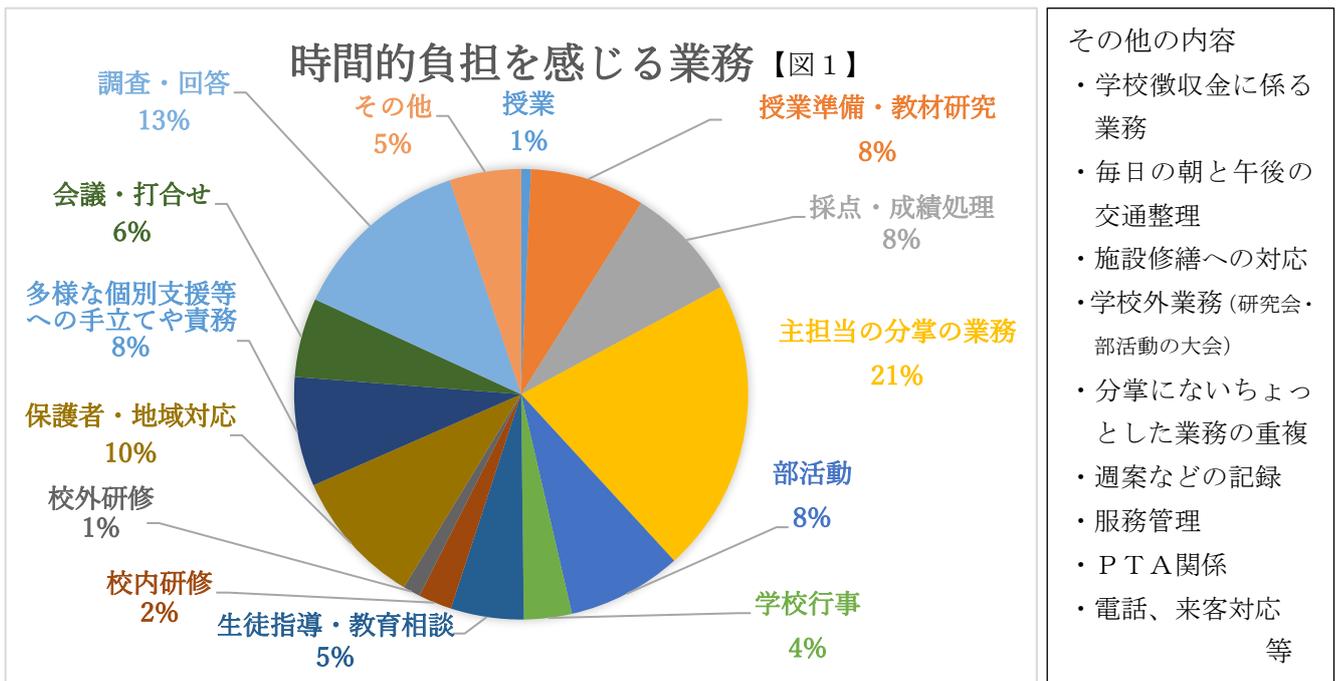
空き時間や余白の時間を生み出すことが子どもと向き合う時間の創出につながるという意見も多く、総授業時数の見直しによる過度な余剰時数の削減（1086時間程度）による5時間授業日の設定等、様々な工夫から、創造的な余白の時間を生み出すも有効と考える。多くの教員は子供と向き合うことでやりがいを感じていることから、職種や校種、年齢別による傾向や課題もさらに研究し、教員一人一人が十分子供たちと向き合って、その成長を実感できるような取組を進めることが重要である。

(2) 「時間的負担を感じる業務」、「精神的負担を感じる業務」の結果（1つを選択）

「時間的負担を感じる業務」としては、「主担当の分掌の業務」が21%と一番多く、次に「調査・回答」で13%となっている（図1）。自身の分掌業務が時間的負担と感じている割合が大きいため、分掌の平準化や、業務の効率化が必要であると考えられる。

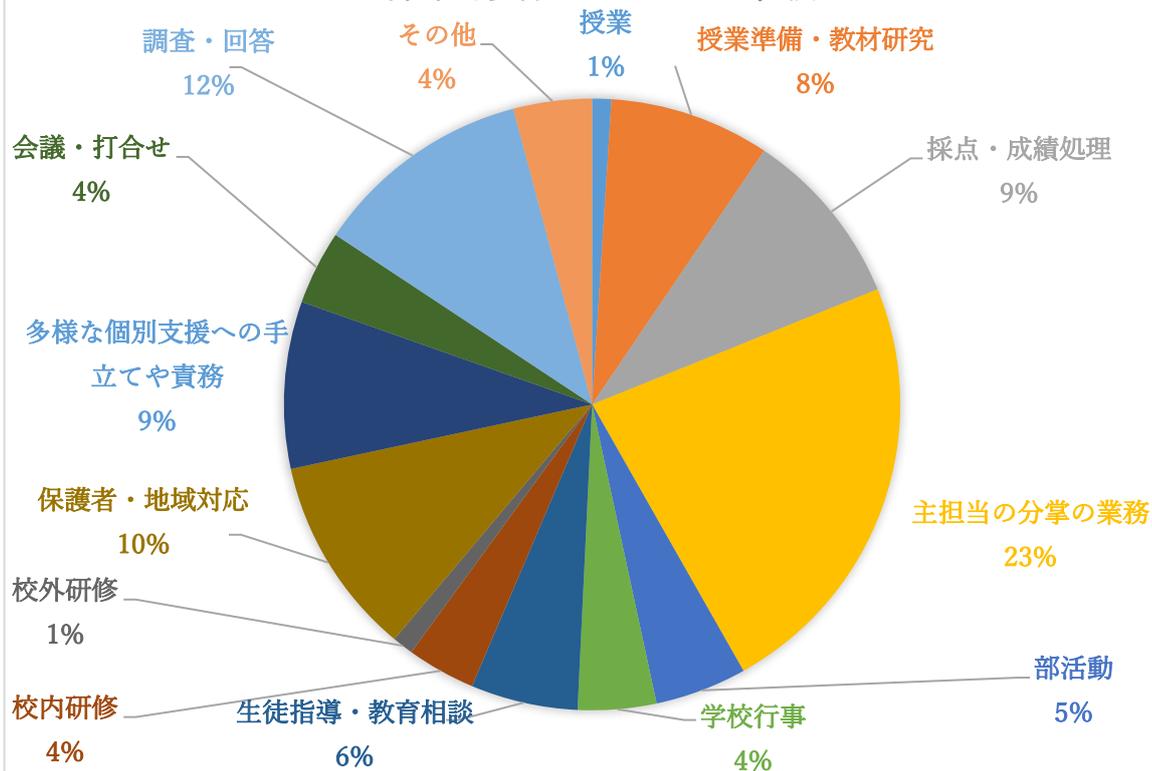
「精神的負担を感じる業務」としては、「保護者・地域対応」が27%と一番多く、次に「多様な個別支援等への手立てや責務」で14%となっている（図2）。個人で対応することへの心細さや、経験不足によるところも大きいと考えられるため、チーム学校としての「学校力」の向上や、研修の充実等が必要であると考えられる。

《全体結果》

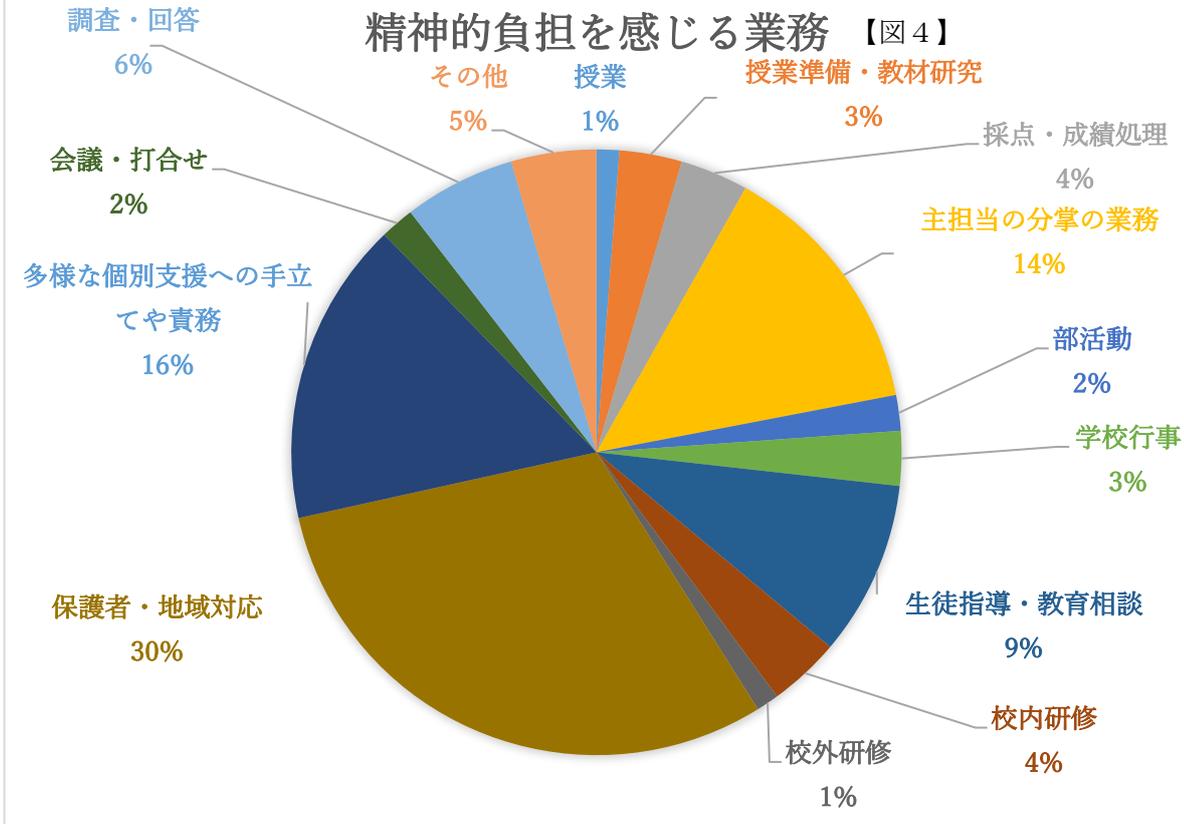


【学校種別 小学校】

時間的負担を感じる業務【図3】

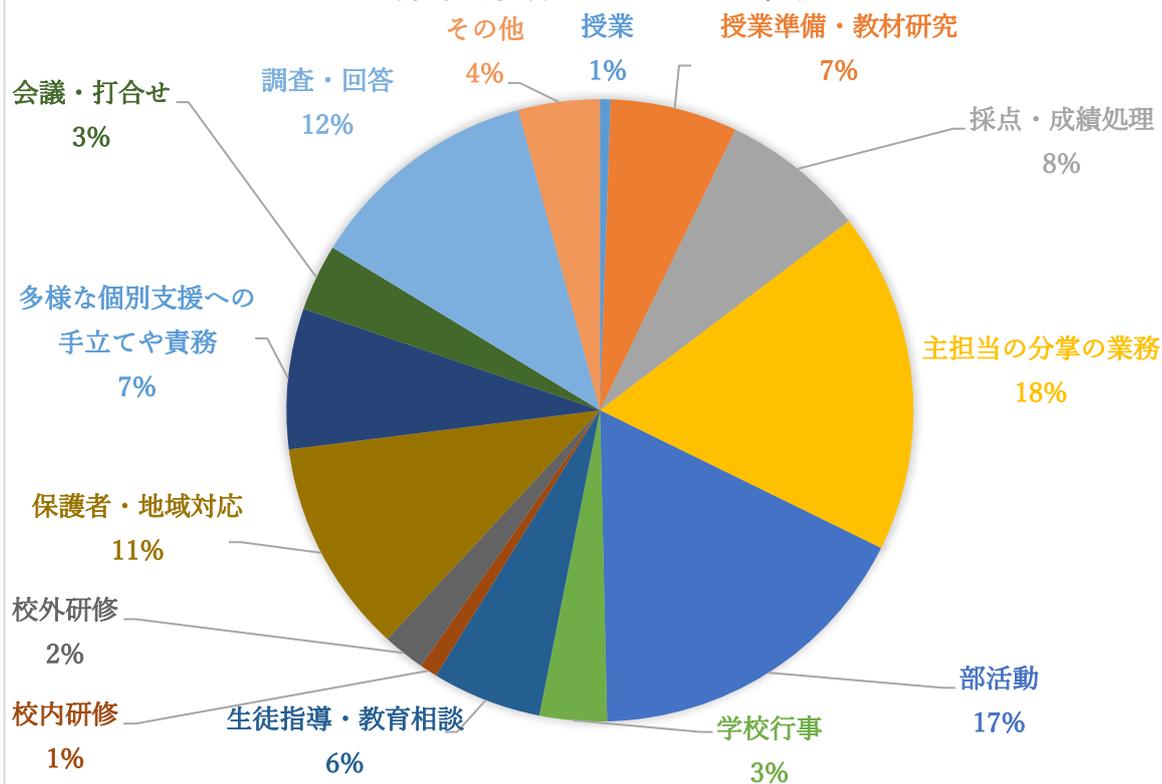


精神的負担を感じる業務【図4】

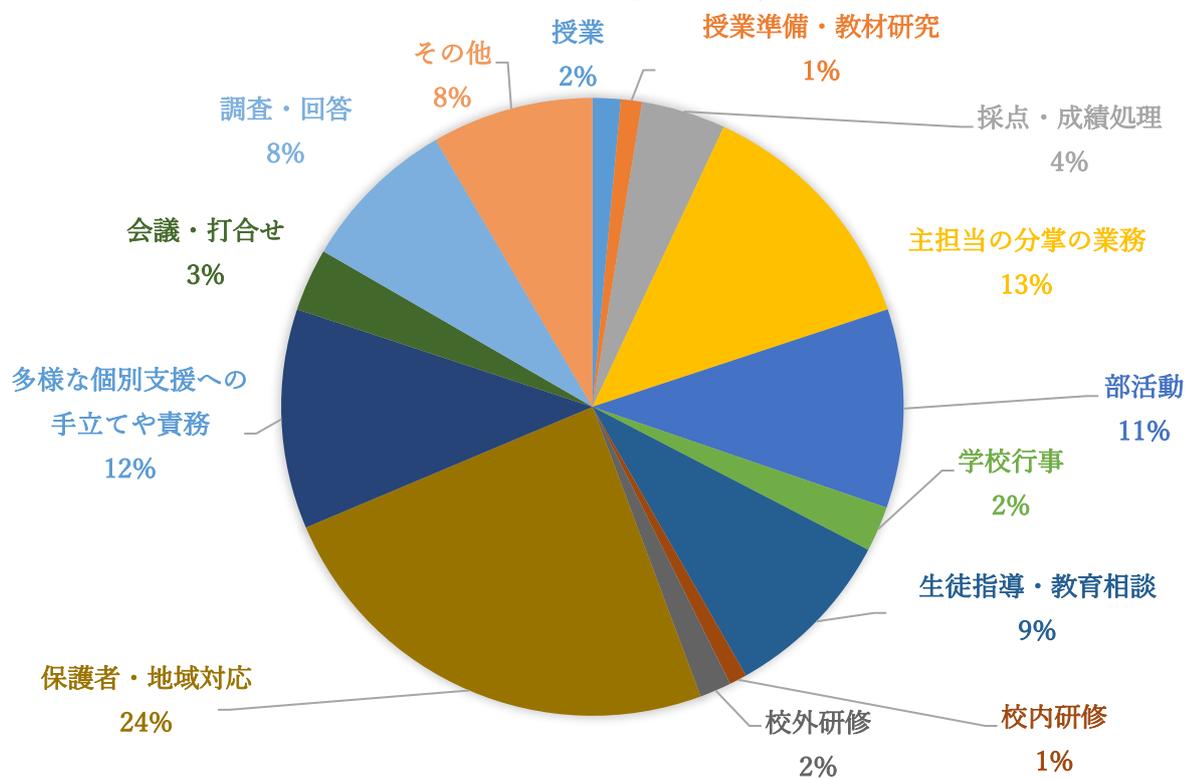


【学校種別 中学校】

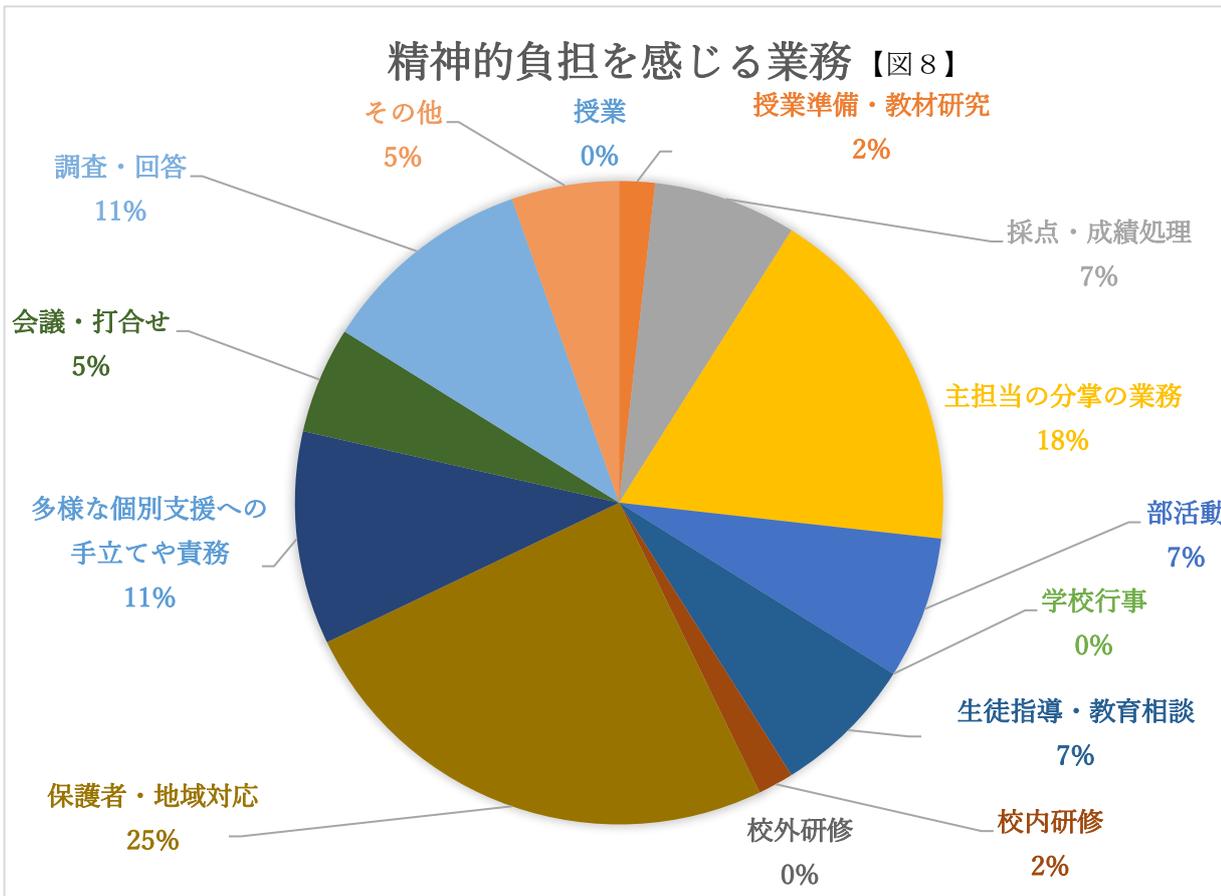
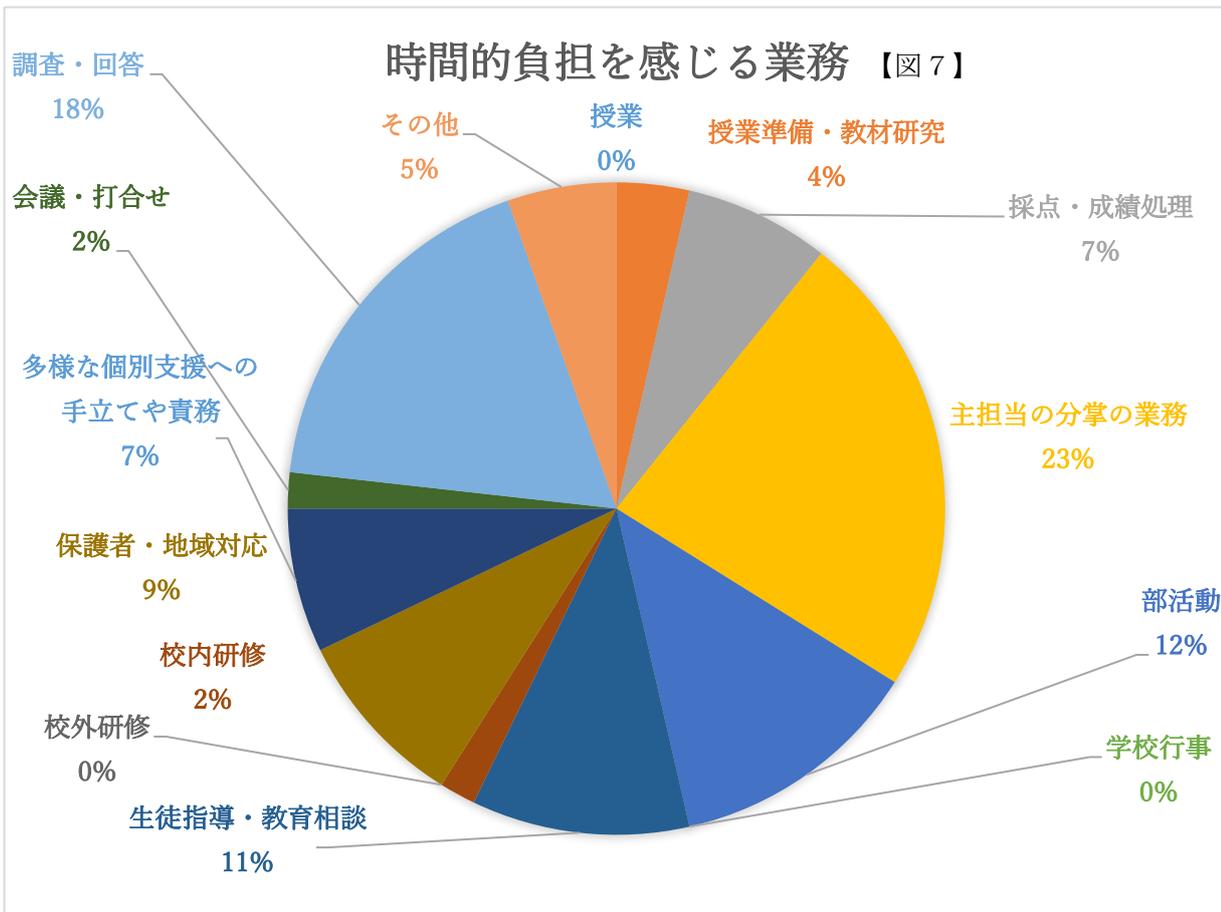
時間的負担を感じる業務 【図5】



精神的負担を感じる業務 【図6】

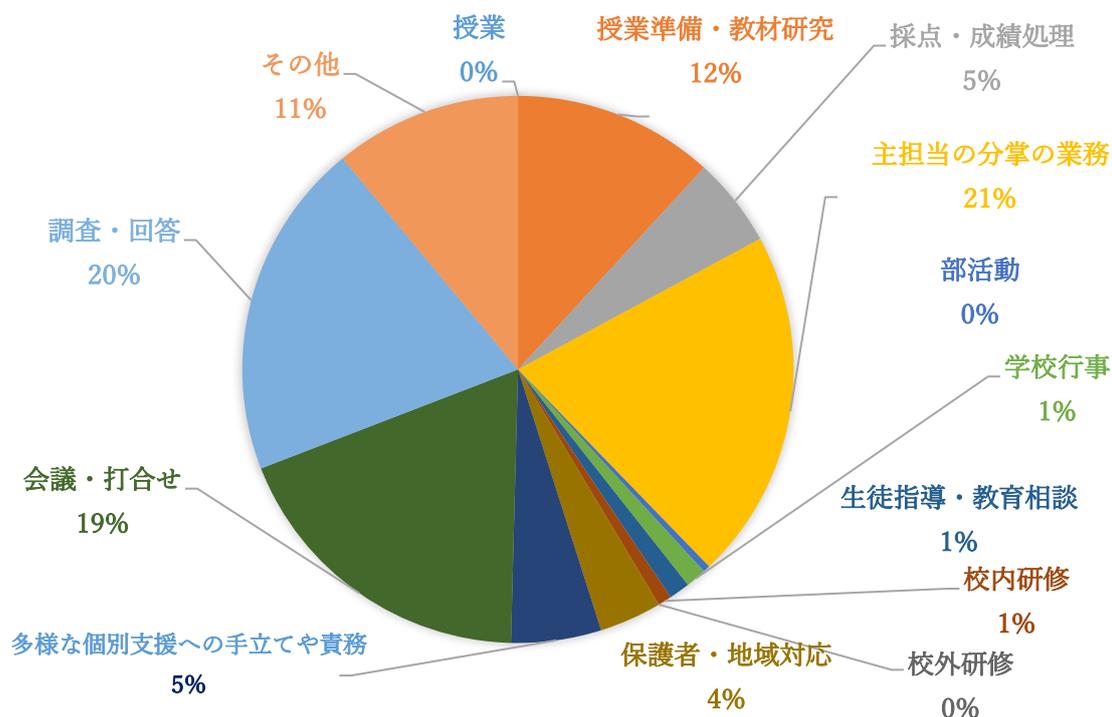


【学校種別 高等学校】



【学校種別 特別支援学校】

時間的負担を感じる業務【図9】



精神的負担を感じる業務【図10】

